



第2回えほんみち絵本講座

えほんみち主宰の早川は、絵本業界に30年身を置いてきて思うことは、日本は間違いなく絵本先進国だということです。
また、絵本作家を目指している方の人数も日本は世界一でしょう。
しかし、新人絵本オーディションを去年と今年、開催してきてわかった事があります。
それは、日本の絵本出版社のほとんどが「新人を育てる余裕がない」という事です。

ですから「編集者に引っ張りあげさえてもらえたら、自分だって絵本作家になれる」と思っている人がいたら大間違いです。
絵本編集者は及第点の人の作品はブラッシュアップしますが、及第点以下の人の作品を真剣に面倒見るほど暇ではないのです。
つまり、絵本作家になるためには、自分でレベルアップしていかなければならないのです。
ところが、日本には絵本制作のための教室が数多くありますが、受講生が納得して、翌日から作品が変わるような講座はどのくらいあるのでしょうか？

数年前にクリ8の小山英夫氏のご協力のもと第1回えほんみち絵本講座を開催しました。
そして今回、満を持して第2回えほんみち絵本講座を開催いたします。
この講座は、趣味の絵本教室とは違います。とても厳しいです。
ですので、本気で自分の絵本をレベルアップさせたい人のみお申し込みください。
この講座を受講したら、もう以前のあなたには戻れなくなるでしょう。



第2回えほんみち絵本講座概要

- 講義期間 2016年7月7日(木)～12月15日(木)
基本的に第1木曜日と第3木曜日の19時より21時まで
- 募集人数 対面講座30名 通信講座30名
- 講義会場 表参道ビジネスフォーラム(地下鉄表参道駅B3出口徒歩1分)
東京都港区南青山5-6-24 南青山ステラハウス7階
- 募集期間 2016年4月20日～7月5日
- 受講資格 対面講座 どなたでも受講可能です。
通信講座 動画をインターネットで見られる環境が必要です。
- 課題提出 月の前半の講義では毎回課題が出され、次回までに提出していただきます。
- 応募方法 氏名(フリガナ)・性別・年齢・住所・電話番号・FAX番号・メールアドレスを
メール・FAX・郵送のいずれかの方法で連絡の後、指定の銀行口座に受講料を振り込んでください。
- 受講料 60,000円(税込)

主催 株式会社 東京ブックサポート 代表 早川裕
〒182-0022 東京都調布市国領町4-13-30-201
e-mail: ehonmichi@gmail.com
FAX: 042-488-8361

<応募欄>

フリガナ:

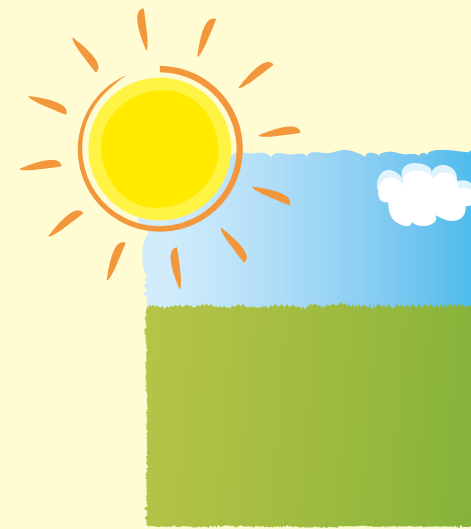
氏名:

年齢: 才 男・女

住所: 〒

TEL: () FAX: ()

e-mail:



第2回えほんみち 絵本講座

日本は間違いなく絵本先進国です。
そして絵本作家を目指している方の人数も日本は世界一でしょう。

しかし日本には、絵本のアイデアや文を中心にすえた教室がありません。
えほんみち絵本講座は、絵本のアイデアや文章に特化した絵本講座です。
本気で自分の絵本をレベルアップさせたい人のみお申し込みください。
この講座を受講したら、もう以前のあなたには戻れません。

受講生募集

主催: (株) 東京ブックサポート
協力: (株) オフ・クリエイト

講座スケジュール

第1回	7月 7日 (木)	早川講座 ①	『絵本とは』
第2回	7月 21日 (木)	ゲスト講師①	五十嵐千恵子 (フリーランス編集者)
第3回	8月 4日 (木)	早川講座 ②	『日本の絵本の歴史』
第4回	8月 18日 (木)	ゲスト講師②	風木一人 (絵本文章作家)
第5回	9月 1日 (木)	早川講座 ③	『絵本を出版するという事』
第6回	9月 15日 (木)	ゲスト講師③	宮川勉 (小学館 編集長)

第7回	10月 6日 (木)	早川講座 ④	『絵本の構想を練る』
第8回	10月 20日 (木)	ゲスト講師④	岩田明子 (絵本作家)
第9回	11月 4日 (金)	早川講座 ⑤	『絵本制作の注意点』
第10回	11月 17日 (木)	ゲスト講師⑤	富田ますみ (大日本図書 編集長)
第11回	12月 1日 (木)	早川講座 ⑥	『講評』
第12回	12月 15日 (木)	ゲスト講師⑥	澤田精一 (元福音館書店 編集)

最強の講師陣



五十嵐千恵子 (いがらし ちえこ)

フリーランス編集者。主な構成・編集作品に『イカタコつるつる』(長新太/作)『オレ・ダレ』『オー・スッパ』(ともに越野民雄/文 高島純/絵)、『ヤッホー ホイホー』(スズキコージ/作)、『井上ひさしの子どもにつたえる日本国憲法』(井上ひさし/著 いわさきちひろ/絵)、『少年口伝隊一九四五』(井上ひさし/著)、『けんぼうのおはなし』(井上ひさし/案 武田美穂/絵)、『絵本 窓ぎわのトットちゃん』(黒柳徹子/文 いわさきちひろ/絵)、『ton paris』『茂田井武美術館 記憶ノカケラ』(ともに茂田井作品集)、『瀬川康男画集 いきとしいけるもの』、『絵本作家という仕事』(15人の作家へのインタビュー集)、『藤城清治の旅する影絵 日本』(藤城清治作品集)など。



風木一人 (かぜき かずひと)

東京生まれ。絵本の文章作家・翻訳家。創作絵本に『うしのもーさん』(絵/西村敏雄 教育画劇)、『ぬいぐるみおとまりかい』(絵/岡田千晶 岩崎書店)、『ふしぎなトラのトランク』(絵/斎藤雨臈 鈴木出版)、『青のない国』(絵/長友啓典・松昭教 小さい書房)など多数。『ながいながいへびのはなし』(絵/高島純 小峰書店)はフランス、韓国、中国、台湾で翻訳出版されている。翻訳した絵本に『こぼんくまさん つきへいく』(作/マーサ・アレクサンダー ほるぷ出版)、『おおきな木のおはなし』(作/メアリ・ニューウェル・デバルマ ひさかたチャイルド)などがある。



宮川勉 (みやかわ つとむ)

1961年 千葉県生まれ。早稲田大学政治経済学部卒業後、小学館へ入社。自然のことに関わりたくて、希望していたBE-PALに配属される。最初の仕事は、当時イラストレーターであった村上康成氏の原稿をもらうこと。その後他編集部を出たり入ったりするものの足かけ15年間を同編集部で過ごす。2006年、保育誌の編集部へ異動。2011年『新 幼児と保育』を創刊。絵本作家・中川ひろたか氏の主催するA1 あそびうたを支援。その縁で、長谷川義史氏などに仕事を依頼。『新 幼児と保育』の表紙は、毎号第一線の絵本作家に描き下ろしの作品をいただく。一枚だけの絵本というコンセプトの「表紙絵本館」を続けている。現在同誌編集長兼「こども・保育」室長。趣味は昆虫採集とその虫を描くこと。クラシックギター、階段を上ること。



岩田 明子 (いわた あきこ)

1967年、東京生まれ。1991年、武蔵野美術大学視覚伝達デザイン学科を卒業。2004年、子どもの本専門店「メリーゴーランド」(三重県四日市市)主催の「絵本塾」に参加。絵本作品に「ばけけけけけけけけたくん」シリーズ、『とんねるとんねる』『どっしーん!』『どんどんくるくる(文・中尾昌稔)』(ともに大日本図書)、『こちらたこたびょういん』(PHP研究所)『はらぺこソーダくん』(佼成出版社)がある。



富田ますみ (とうだ ますみ)

大日本図書所属。主な編集絵本に「ばけたくん」シリーズ、「にんにんじんのにんじんじゃ」シリーズ、『とんねるとんねる』『どっしーん!』『どんどんくるくる(文・中尾昌稔)』『いろいろパス』『おふくさん』『みんなでつくっちゃった』『おばけにてそうろう』『ともだちのつくりかた』など。



澤田精一 (さわだ せいいち)

1948年千葉県生まれ。福音館書店で児童文学専門誌「子どもの館」、月刊絵本「こどものとも」「こどものとも少年版」「かがくのとも」を担当し、大竹伸朗『ジャリおじさん』、スズキコージ『きゅうりさん あぶないよ』、飯野和好『むかでのいしゃむかえ』、伊藤比呂美+片山健『なっちゃんのなつ』などを編集する。白百合女子大学、日本女子大学で非常勤講師。児童文学評論誌「季刊ばらるる」編集委員。ピンポイントギャラリー絵本コンペ審査委員をそれぞれ勤める。著作に『ひそませること/あばきたてること—絵本編集の現場から』(現代企画室)、共著として「科学絵本とは何か」(『絵本と社会』朝倉書店)、「不条理絵本とは何か」(『絵本ものがたり FIND』朝倉書店)などがある。



早川裕 (はやかわ ゆたか)

1959年 東京都生まれ。1983年9月、クレヨンハウスに就職。児童書売場や出版営業などを担当し2003年4月退社。2003年5月、東京ブックサポートを立ち上げる。2005年2月、J P I C 読書アドバイザー養成講座第13期を修了。2006年2月、絵本の読み聞かせ活動開始。書店を中心に活動し通算200ステージを超える。2014年4月、株式会社集文社 代表取締役役に就任。2015年2月、絵本『おなかのなかにいたときはね』を出版。絵本作家の卵を応援する「えほんみち」主宰。